

プレスリリース【新刊刊行】  
報道関係者各位

2011年6月3日発信

## 『世界が見た福島原発災害』刊行

海外メディア報道で浮き彫りにされる情報操作の実態と事故の真実

環境／社会問題を専門とする出版社・(株)緑風出版(りよくふう・しゅっぱん、代表=高須次郎)では、5月27日、福島原子力発電所事故を海外メディアがいかに報じているのかを通じて、この未曾有の大災害の真相に迫る『世界が見た福島原発災害』を刊行しました。

インターネット、ソーシャルメディアなどを通じて、市民が容易に政府発表やマスメディアでは報じられない情報をつかみ、物事を多角的に分析する能力を得るなかで、福島原発をめぐるマスレベルの言論は誰もが嘘を掴まされていることがわかっていながら、そうした茶番が延々と演じられるという、悲喜劇的な状況に陥っている。

本書はブロック紙記者から論説委員までを務め、日本メディアの内情に精通した記者が、海外メディアを通じて得た膨大な情報をもとに、日本政府、保安院、東京電力、「御用」学者等が積み上げてきた情報操作、虚偽、隠蔽……について検証していく。

政府の不作为によって退路を断たれ、その方針に沿って演出された報道の虚飾によって世間の目から覆い隠された、飯館村の状況に迫る緻密な検証から、原子炉の状況をめぐる論争の分析、はたまたウィキリークスによって暴露された各国の機密電における対日評価まで、視点を縦横に巡らせて、この事件に対する多角的な視野を提供する。

個人のメディアリテラシーのレベルで生死を左右されかねない現在を活写する、必読の一冊だ。

[書誌データ]

『世界が見た福島原発災害—海外メディアが報じる真実』

ISBN978-4-8461-1108-3 C0036 四六判並製 280頁 本体価格1700円

[著者] 大沼安史 (おおぬまやすし)

1949年、仙台市生、東北大学法学部卒。北海道新聞社に入社し、社会部記者、カイロ特派員、社会部デスク、論説委員を歴任後、1995年に中途退社し、フリー・ジャーナリストに。2009年3月まで、東京医療保健大学特任教授。訳書に、『イラク占領』(パトリック・コバーン著、緑風出版)、『戦争の家ペンタゴン』(ジェームズ・キャロル著、上下2巻、同)などがある

(株)緑風出版(りよくふう・しゅっぱん)は1982年の創立の専門書出版社(本社・東京都文京区本郷)。エコロジー・環境問題から内外政治・社会問題まで、現代と未来をみすえた書籍を刊行。2003年、優秀な出版活動に対し唯一贈られる第18回梓会出版文化賞を受賞。刊行図書に『ドキュメント日本の公害』、プロブレムQ&Aシリーズ等がある。



本プレスリリースに関するお問い合わせは、(株)緑風出版・営業部まで

TEL 03-3812-9420 E-mail: info@ryokufu.com